

# Monthly Report

## 2013/9月号

(株)フレンドリージャパン

—目次—

- 1面 旅行社の声  
現地旅行社キーマンインタビュー
- 2・3面 一般情報/トレンド情報
- 4面 壹友からの声/マーケット情報

### 現地旅行社からの声

2013年10月1日から、新しい「旅游法」が実行される。今回の法改正で現状の旅行マーケットの仕組みが根本から改変され、特に、我々旅行社にとっては造成するツアー内容の改変を余儀なくさせられる。

最大の改変点は、「ツアー行程へのショッピング店組込み不可」「現地でのオプションツアー販売不可」の2点である。中国国内で強く批判されている「旅行中の強引なショッピング案内」や「強引な現地でのオプションツアー販売」を徹底的に規制する姿勢だ。そのため、現状の格安ツアーでは、販売代金が30%~100%程度値上がりする可能性がある。

例えば、上海から香港まで4日間のツアーでは、2,000元を切るツアーも設定されている。現地に到着後、一日4~5軒のショッピング店を案内し、ローカルガイドが3~4個のオプションツアーを押し売り販売するのが普通である。参加しているお客様が土産物やオプションツアーを購入しない場合、ガイドがツアーを強制的に中断したり、お客様を殴ったりするニュースも度々報道されている状況である。また強制的に販売された土産物が市販価格の3~4倍で販売されていることが多く、帰国後、苦情が連発している。

法改正後、上述のような行為は厳重に罰則対象とされることとなるため、2,000元の香港ツアーは、2倍の4,000元程度に値上げされることになりそうだ。価格影響が大きいのは、東南アジア、韓国、香港、マカオ方面へのツアーである。日本へのツアーも、もちろん値上げすることになりそうだが、値上げ率は比較的lowめに抑えられると考えている。

我々旅行社に対しては、値上げによるツアー参加顧客の減少は大きな衝撃ではあるが、本来あるべきクリーンなツアーを提供していくことで業界の信用が高まり、近い将来的には必ず需要は復旧されると予測している。

そういう意味では、10月からの国慶節大型連休、来年1月末の春節大型連休に、どのようなマーケット状況になっているのかが大きな関心ごとになっている。

### 好評連載【今を知る！ 現地旅行社 キーマンに聞く。 第5弾】

中国国旅(広東)国際旅行社股份有限公司 出国旅游本部日韓中心 総監 黄培荣 (HUANG PEIRONG)さん

Q:今年夏休みの訪日旅行の取扱状況を教えてください。

A:夏休みは好調でした。去年と同じ水準か若干上回った状況でした。

Q:どの方面、コースが売れ筋でしたか。

A:広東省では、やはり定番のゴールドルートが人気です。本州+北海道も売れています。

Q:ビザの状況はどうなっていますか。

A:団体ビザには変化ありませんが、個人ビザは厳しくなりました。一番困っているのは、個人旅行でも、ホテル手配をランドオペレーター経由で手配しなければなりません。ランドオペレーターから仕入れる料金、お客様が直接インターネットで照会した料金より高い状況なので、なかなか個人旅行の申込を受けることが難しい状況です。

Q:10月から新しい「旅游法」の実施で、ツアー代金には影響がありますか。

A:大きな影響が出ると思われます。特に東南アジア方面や韓国方面は、3~10割程度高くなりそうです。訪日ツアーへの影響は比較的少なくすみそうですが、1~2割程度の料金Upが予想されます。

Q:ツアー代金が高くなると、集客には影響がありますか。

A:もちろんありますよ。暫く(2-3か月)は旅行意欲の落ち込みが出るのでしょうか。春節前には回復して欲しいです。

Q:団体ツアーでショッピング案内ができなくなると、現地での対応はどうなると思いますか。

A:それも大きな課題です。お客様から買い物のリクエストがあった場合にどうするか、迷っている状態です。

Q:弊社発刊の冊子「壹游日本」について感想やご意見をお願いします。

A:非常に情報豊かな冊子だと思います。日本商品の企画には役に立ちます。一つ意見ですが、掲載されている施設マップについては、中国語だけでなく日本語版も入れて、日本人に道を聞けるような掲載にして欲しいです。



### ◆観光客数が激減、上海の日本語ガイドが転職

2012年から、中国に来る日本人の観光客数は激減した。中国旅行社の一部の日本語ガイドは、観光団体がなくなったため、苦しい状況になり、大量のガイドは辞職または業界を転換した。

上海青旅、上海国旅など上海の一部の主力旅行社が6日、「今年になって日本から中国に来た観光客数は2011年同期の六分の一に減少、一部の中小の旅行社は今年、接待した日本人観光客数はさらに一桁になった」と語った。

ここ2年、日本国内経済の不景気、人民元の値上げ、尖閣諸島事件など政治的要素によって、日本から中国に入国した観光客数は2012年から激減し、今年も下がり続けている。国家観光局の統計によると、今年1～5月に、中国で1泊以上の観光客数は2,293万人で、同期比4.06%減った。そのうち、日本からの観光客数は117.76万人で、同期比24.54%減った。

「入国観光について、日本の客は旅行社の最大の事業の一つであり、旅行社入国部門で最大の収入の源の一つでもある」と、上海のある観光業関係者は語った。多くの旅行社は日本部または日韓部を独立して設けているが、日本からの観光客が引き続き激減するため、一部の旅行社に事業部門を調整しなくてはならない。

旅行団がなくなったため、上海の日本語ガイドの全体収入は減少し、大部分の人が辞職または業界転換をしなくてはならない。上海の旅行社のガイドの収入は「基本給＋歩合」という体制が採用されている。基本給は一般的には1,000元以上だけで、2011年の時、歩合を加えて月収が8,000元以上になり、今年は高収入のガイドでも2、3,000元前後だけもらった。

上海国旅の場合、2011年の日本語ガイドは60、70人いたが、現在、40人前後になっている。業界関係者によると、将来、日本の観光客数は引き続き下がる見込みだ。JTB、阪急、近畿など日本の大手旅行社はほとんど中国観光のPRをせず、さらに中国観光商品をオフラインした。

(出先: 8/7日付け 文匯報 訳: 壹友)

---

### ◆2013上海観光祭が9月14日に開幕、52カ所の観光スポットは半額

上海市観光祭組織委員会が8月8日明らかにしたところによると、今年の観光祭が9月14日から10月6日に開かれる。開幕式では20台の山車、29組の海外グループが登場する。そして、一番期待されるのは、9月14日から18日の間に、上海の52カ所の観光スポットが、入場券の半額優遇イベントを打ち出す。主な対象施設は東方明珠塔、上海野生動物園、上海科学技術館、浦江観覧など。

これは「5.19中国観光デー」以降の全市範囲での観光スポット優遇イベントだ。今年の観光祭は、優遇イベントの他に、上海の観光業界は国内外の観光客により良いサービスを提供するように努力している。

(出先: 8/8日付け 新浪網 訳: 壹友)

## ◆浦東 真夏金秋観光ビッグラン、ホテル宿泊で入場券無料配布

浦東のホテルに宿泊すると、観光スポットの入場券が無料でもらえる。浦東新区では域内外の13か所の有名観光スポットと50あまりのホテルが協力して、真夏金秋上海観光ビッグランイベントを打ち出した。

イベントは8月7日から10月7日まで、夏と秋の二ヶ月間行う。期間中、浦東の関連ホテルに宿泊すると、無料で観光名所の入場券1枚をもらえる。

今回のイベント加入の観光名所は13か所で、東方明珠塔、上海科技館、環球金融センター観光棟、金茂大廈88階展望台、中国航海博物館、宇宙文化館、上海マダムタッソー蠟人形館、バンド観光トンネル、上海リニアモーターカー、万博月船、イタリアセンター、チョコレート樂園、2062新エネルギーテーマパーク、大自然野生昆虫館など。

(出先: 8/14日付け 東方網 訳: 壹友)

## ◆2013年中国出国旅行の主な目的地

香港、澳門と台湾の他に2013年上半期に中国出国旅行にてTOP10の目的地はタイ・韓国・カンボジア・アメリカ・日本・ベトナム・マレーシア・シンガポール・オーストラリア・インドネシアだった。

2012年と比べると、タイは韓国を越えて1位になった。日中尖閣諸島の影響で2013年前半に訪日観光人数は大幅に減少した。本来日本に行く予定の観光客は行程を近場のタイと韓国に変更した。カンボジア・ベトナム・ロシアに訪問する人の中の多くは、辺境旅行者または境界通過する貿易者です。全体から見ると、中国国民の間でアジアに旅行に行く人数はゆるやかに増える態勢を維持しています。

(出先: 8/22日付け 中国出国旅遊資訊網 訳: 壹友)

## トレンド情報

### 中国の伝統的な「バレンタイン」七夕

中国の伝統的な「バレンタイン」七夕(8月13日)にあたり、上海では生花の花束の値段が高騰している。平日200元前後の花束が400元にあがっても売り切れているようだ。そのほか、ホテル客室予約数は、程度の差はあるが軒並み増加したという。

南京では、漢服をまとい頭髪を結い上げた華夏文化伝承社の女性たち100人近くが南京のあるコミュニティを訪れ、お香を焚いたりお酒を奉げるなどして七夕の儀式を行い、七夕祭の本来の意義と習俗をともに体験した。



雲南省昆明市の街頭では昨今、キスコンテストが行われた。6組の試合に参加した恋人が47分間を経て、1位、2位と3位が決定された。最後まで堅持したカップルが疲れすぎて最終にレッドカーペットに倒れたという。

(出先: 8/13日付け 新民網 訳: 壹友)

今、旅行業界で最大の話題と言えば、中華人民共和国「旅游法」の施行でしょう。旅行社の方との打合わせや宴会の際には、必ず、その話題で盛り上がります。なぜならば、今までのマーケットと全く仕組みが変わることになるからです。

中国人観光客の消費傾向は、出発前には価格中心にツアー選定を行う一方で、出発後・現地滞在中には莫大な消費力を発揮するという特徴があります。

そこで、旅行社では団体ツアーを設定する際には出来るだけ基本販売料金を抑える努力をする必要があります。その一方で現地滞在中では、コミッション収入を目当てにしたショッピング店への案内や、現地オプションツアーを積極的に販売して、ツアー全体の収入をカバーしているのが実情です。

その結果、参加したお客様が不要な物や市場価格より高い物を買ってしまうことや本来行きたい観光地や観光施設に行けずに、旅行社の設定したオプションツアーへの参加を余議なくされ、結果的に苦情に繋がってしまうことも少なくありません。

優良な大手旅行社は、本来、そのような悪名を着せられることを良しとしていません。

旅行社が意図した訳ではなく、マーケット環境が作り出してしまった傾向ではないかと思えます。

今回の新しい「旅游法」では、根本的に、そのような悪しき環境や傾向を打破しようとしています。

法改正による最大の変化はツアー代金の値上げです。韓国ツアーが3,000元から5,000元へ、タイやマレーシアは2,000元から4,000元へ、香港は3,000元から5,000元へと大幅にツアー料金が上がります。

もちろん訪日ツアーについても格安団体ツアーの料金は上がることになりそうですが、他のアジア諸国と比べると上がり幅が低く抑えられる可能性が高く、訪日マーケットへの影響は比較的小さいものになると予想されています。逆に、今まで、価格中心に選ばれていた東南アジア、韓国、香港へのツアーから、訪日ツアーへお客様がシフトしてくる可能性も十分に考えられます。

法律の改正によって旅行マーケットの規律整備を進めることになりませんが、国からの押し付けでどこまで成果が出るのか、中国旅行社の皆さんも、じっくり市場の反応を見ている状況です。

来年1月末の春節時期までにマーケットが落ち着いて、訪日旅行が本格的に盛り上がっていくことを願っています。

## タイムリー 中国マーケット情報

### ◆団体

7～8月・2ヶ月間の夏休み期間中は、訪日ツアーは著しく活発化しました。また、10月からの法改正前に、旧体制の格安ツアー設定をしてラストチャンスと言える9月の低価格時期に向けた募集ツアーが絶好調の状況です。7～8月は家族旅行が中心で、9月は社員旅行や報奨旅行が多い傾向です。

### ◆FIT

8月から個人ビザの申請方法や発給条件が厳しくなり、新規取得が大変難しい状態になっています。すでにビザを入手している人は問題ないが、今後、新規で個人ビザや個人マルチビザの取得が難しくなるため、個人ツアーへの参加傾向が若干落ち込み気味です。旅行社からは早期の査証取得の緩和策を期待しています。

### ◆商品造成

本州ゴールデンルートは依然として大人気です。その他、北海道や沖縄も人気の行先になっています。また、東京オンリーや、大阪オンリーのショッピング向けのフリープランも好調な状況です。家族旅行の多い夏休み時期には、科学館や博物館等の体験型ツアーもブームになっていました。これからは、秋の紅葉のツアーも多く企画されています。



# 株式会社フレンドリージャパン



〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町14-6 黒松ビル501

TEL 03-6416-5505 FAX 03-6416-5515

E-mail [madoguchi@friendlyjp.com](mailto:madoguchi@friendlyjp.com) HP <http://www.friendlyjp.com/>